SBS 2006 カップ 国際ユースサッカー

最終日

韓国が大逆転

得失点差で日本かわす

韓国が大逆転で頂点に。SBS杯国際ユースサッカー（日本サッカー協会、県サッカー協会、静岡新聞社・静岡放送主催）最終日は15日、袋井市のエコパスタジアムで「日本―メキシコ」「静岡―韓国」の2試合を行った。2試合を終えて勝ち点6でトップに立っていた日本は第1試合でメキシコと対戦した。しかし、メキシコの速い攻めの前に1―3で屈した。第2試合は勝ち点3の韓国が猛攻で静岡を5―0で退けた。この結果、日本と韓国が勝ち点6で並んだが、得失点差で韓国が上回り、優勝が決まった。日本は2位、3位は勝ち点5のメキシコ、静岡は勝ち点1で4位にとどまった。

きのうの結果

韓国 5―0 静岡
メキシコ 3―1 日本

U―19韓国代表 5（1―0、4―0）0 静岡ユース（1）

▽得点者【韓】沈永星3（金民均）河太均（朴弦昇）奇誠庸（李青龍）（なし）（李弦範）

【評】韓国が終始、迫力ある攻めを展開して静岡を圧倒した。

大差で勝てば逆転Vもある韓国は、立ち上がりから静岡ゴールに迫った。前半3分、ペナルティーエリア右やや外側のFKを生かし、奇誠庸が決めて早々と先手を取った。このあとも持ち味のスピードと高さを全面に出し、一段と分厚い攻めを見せた。

静岡の体を張った守りで前半は加点機を逃したが、後半は次々とゴールを奪った。特に、沈永星はペナルティーエリア内で鋭い動きを見せ、ハットトリックを達成した。

静岡は韓国の猛攻に遭いながらも、終盤は反撃。松浦のドリブル突破を中心に相手ゴールに迫ったが、韓国の堅守を崩せなかった。

挑む姿勢貫く

静岡

○…静岡は韓国の気迫の攻めに屈した。「高さとスピードにやられた。しかし、最後までチャレンジャーの気持ちを忘れずに戦ってくれた」と沢木監督（浜北西高）は選手の戦う姿勢を評価した。

昨年までの静岡ユースは、直後の国体東海大会への試金石として、この大会に挑んだ。ところが、規定が変わり、ことしから国体のチーム編成は16歳以下となった。このため、士気の低下が懸念されたが、選抜メンバーは最後まで気力をふり絞って、国家代表の3チームと渡り合った。

「チャレンジ」が、この大会チームのテーマだった。「チームとして、個人として成長するために」と沢木監督。勝ち点は1にとどまったものの、薗田主将（常葉橘高）以下各選手は、挑戦し続けたことで、結果だけでは図れない成果を手にしたことは間違いない。

【韓国】3・5・2
GK 赫秀 ハ
 浮正 ム
 庸喆 ス
 龍誠 ン
 範 ヒ
 勳 ン
 護青 ス
 浩光 ク
 昇主 ル
 星鉉 ス
 永郎 ス
 沈郭 ス
 朴 ス
 中 ス
 朴 ス
 李 ス
 奇 ス
 徹 ス
 秀 ス
 赫 ス
 浮 ス
 庸 ス
 龍 ス
 範 ス
 勳 ス
 護 ス
 浩 ス
 昇 ス
 星 ス
 永 ス
 沈 ス